



お産&子育てサポート

発行・編集
お産&子育てを支える会
代表 齊藤 智孝
編集者 東 直美
TEL/FAX 090-7103-2240



「フェムシップドクター」とは？

一般財団法人日本女性財団がコロナ禍に設立され、すべての女性が健康で生きやすく、活躍できる社会を目指す活動をしています。



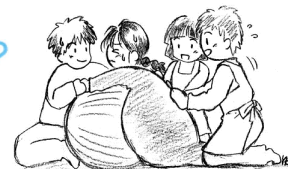
「経済」「教育」「健康」「政治」の4分野で評価したものをジェンダー指数と言い、日本は2024年度118位、一昨年に比べると若干上昇したのですが、相変わらず低迷しています。G7主要7カ国では最下位、アジアにおいても韓国や中国より低く、男女格差が解消されていない国です。そして、国の経済が低迷するとその犠牲になるのは女性や子ども達と言っても過言では有りません。賃金差や失業で生活は苦しくなり、健康までむしばむ事が多々あります。コロナ禍はそれに拍車をかけ、生理用品さえも買えない女性が存在するようになりました。そのような中で女性医師達の呼びかけで日本女性団体が設立され、1. 女性達の現状を知る活動 2. 女性支援を広げる活動 3. 情報・データを集め政策提言する活動の三本柱で活動しています。そして、特に健康に関する困窮女性(望まない妊娠や性被害、性感染症など深刻な状態に陥っていても経済的理由から治療できない等)を医療的に支える人材として同会が認定したフェムシップドクターが存在します。同会はその養成も行っており、医師や看護師、薬剤師などの医療従事者を対象に2024年5月時点で96名が認定され、滋賀には1名おられるようですが、まだまだ少ないと思います。経済的困窮から治療費が支払えない状況の場合、治療費や検査代を財団からの補助金でまかなっていますが、財源はクラウドファンディングがや助成金、協力企業の献金等で、これも十分ではないそうです。



コロナ禍からスタートした財団で、歴史も浅く、フェムシップドクターってなんぞや？と認知度も低いでしょうし、サポートしてくれる拠点が何処にあるのかも勿論知られていないと思います。サポートを必要とする女性達に早急に伝わる様、幅広くPRされることを強く望みますが、究極はそのようなサポートを必要とする女性達が無くなるような社会になることが重要なのではないのでしょうか。



お産体験談 part2



共同助産所お産子の家で出産された方、2名の感想文です。

どちらも共通点は“次のお産も助産所で！”でと言う事でした。助産所は妊娠中から1人の助産師による完全受け持ち制で、出産時も産後も同じ助産師がサポートします。長い付き合いの中で、信頼関係を築き、女性が自分の力を信じて出産に挑めるよう働きかけていきます。お産そのものは生理的現象、女性は医療のない時代から出産を繰り返し命をつなげてきました。医療機関で出産が普通になっていますが、自身の力を信じて助産所を選ばれる方もいらっしゃいます。感想文を参考にさせて頂けたらと思います。



予定日の次の日に山登り！

初めての妊娠をして、どうしていいかわからず、とりあえず同じ県に住んでいる義母に相談したら、「お産子の家」を紹介してもらいました。



私は4人兄弟の末っ子で家族は、皆病院出産で子どもを産んでいます。なので、助産院という選択肢は一切ない状態からのスタートでした。はじめは“ふつう”の病院出産がいいんじゃないかと思いましたがS助産師さんとの妊婦健診を重ねていくうちに、健

診だけでは語れない心のケアとこれからのことの相談など、とにかくなんでも聞いてくれる助産師さんという存在に心が惹かれました。

「産むならこの人たちどうみたい！」そう思って助産院で産むことを決めました。

順調に健診が進み、臨月になったとき、「とにかく歩け！」と言われたのも「あ！じっとしてないほうがいいのか。」とびっくりしました(笑)。

予定日がきても生まれず、予定日の次の日970メートルの山を登りました。





後に齋藤さんに山登りの報告をしたときは、さすがに焦っていました(笑)。山登り後、夜中に陣痛がきて、ついに出産の日を迎えます。

朝7時お産この家について、まずあたたかいお味噌汁とおにぎりを出迎えてくれました。その後、よもぎ蒸しをして、陣痛を促進。午後2時に第一子が産まれました。

お産には助産院を紹介してくれた義母も立ち会いました。旦那もずっと背中をさすったり、テニスボールをお尻に当ててくれたりして、みんなの支えがあったからこそここまで来れたとおもいました。次もし妊娠してこどもを産む時も、必ずお産子の家で生みたいです。 N 記



異国での初めての出産を助産院で

初めての出産を迎えるにあたり、アメリカ人として日本に住んでいる私はたくさんの不安を抱えていました。言葉もシステムも慣れない外国での出産というだけでなく、私がこれまで親しんできた文化とは異なる「出産の文化」があることに気付いたのです。



アメリカでは自然分娩が今とても人気があります。私もできることなら自然分娩をしたいと思っていました。しかし、調べていくうちに、日本ではそれがどれほど珍しいことかを知りました。特に滋賀に住んでいる私は病院での出産しか選択肢がないのではないかと思い込んでいました。見知らぬ人たちに囲まれ、私ではなく日本人である夫としかコミュニケーションが取れなくなるのではないかという不安もありました。

そんな中、京都や大阪に住むアメリカ人の友人たちが地元の助産院で出産をし、日本の病院での出産に代わる、より平和的で力強い選択肢として助産院を勧めてくれました。さらに調べていくと、別の友人から「お産子(おさんこ)の家」を紹介されました。



お産子の家の助産師さんたちは私を信じ、私が持つ力を信じてくれました。その安心感は言葉では言い表せないほどでした。特に、担当してくれた助産師さんは、私が理解できるようにと可能な限り英語を使う努力をしてくださり、妊娠中や最終的にお産子で出産するとき起こるすべてのことを丁寧に説明してくださいま

した。そして陣痛が始まったとき、私の夢が実現しました。明るい照明の病院の部屋や騒々しい音、見知らぬ人たちに囲まれるのではなく、何度も通って馴染みのある静かな「お産子の家」で出産を迎えることができたのです。そこには夫と、何ヶ月にもわたって親しくなった助産師さんたちがいました。



陣痛が本格的に痛みを伴うようになったとき、S助産師さんがこう声をかけてくれたのを今でもはっきり覚えています。「“痛い”じゃなくて、“会いたい”だよ。この痛みを通して赤ちゃんに会えるんだよ」と。この言葉には本当に救われました。

娘が生まれた瞬間、私は幸せと安堵の気持ちに包まれました。そして、その後のお産子でのケアは、私が想像していた以上のものでした。手作りの温かい食事や、どんなときも寄り添ってくれた助産師さんのおかげで、外国で新米ママとしての生活を始める私も安心して過ごせました。自宅に戻った後も、何か心配なことがあればいつでもメッセージや電話で相談に乗ってくださいました。遠く離れた家族の代わりのような存在であり、娘の新しい生活を支える素晴らしいサポートとなってくださいました。

妊娠中や産後のケアに関して、お産子での出産を選んだことは私にとって最良の決断でした。自然分娩の経験はとても力強いものでしたし、その後のケアはまるで実家にいるような温かさでした。お産子の助産師さんたちに心から感謝しています。滋賀で出産を考えている方には、ぜひお産子での自然分娩を検討してみてほしいと思います。 K 記



お産子の家イベント紹介

- 2日(日) 8:00 ~ 太郎坊に登ろう会
- 4日(火) 10:30 ~ マミーハウス
- 8日(土) 13:30 ~ しあわせお産相談会
- 10日(月) 13:30 ~ ベビーマッサージ
- 15日(土) 13:30 ~ お産塾
- 18日(火) 10:30 ~ 産後セルフ整体
- 13:00 ~ 産前セルフ整体
- 22日(土) 13:30 ~ 八幡ママパレツスン
- 26日(火) 9:00 ~ 鍼灸の日



春から各地で開催されているマルシェ等に「妊娠・出産・子育て相談会」としてお産子の家助産師が参加するのを検討中です。皆様のより近くで緒出逢いできるかも・・・見かけたらご利用ください

2月17日(月)10:00~13:00
【カンタ!ティモール】映画上映会
八幡・助産院月の小屋



【おっばい塾】10:00~
7日(金)お産子の家
13日(木)八幡ことしん
22日(土)彦根子どもセンター
25日(火)水口まる一む
27日(木)安土コミセン



